

科目名	生命科学																																
科目責任者	熊澤 武志																																
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 2 セメスター																																
DP 番号と科目領域	DP2 教養基礎																																
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。																																
科目概要	生命科学は、生命の営みを細胞や分子レベルで研究し、生物学や化学だけでなく、あらゆる分野から総合的に研究しようとする学問である。本科目では、生命の基本単位である細胞や生命体の複製を中心とした生命基礎現象のしくみを学び、生殖、がん、ストレス、依存症、老化、死などの生命のメカニズムを理解しつつ、看護学を学ぶ上で必要となる生命科学の発展的知識を身につけることを目的とする。																																
到達目標	1. 生体のリズムについて説明できる。 2. 細胞の基本機能と細胞周期について説明できる。 3. 遺伝子と遺伝子操作技術について理解できる。 4. 遺伝子多型と個人差の関係について説明できる。 5. 生命活動に影響を及ぼす諸因子について説明できる。 6. 生命科学を基礎とする医療の進歩について具体的に述べることができる。 7. 生命への関心を深め、問題意識を高めることができる。																																
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th><授業内容・テーマ等></th><th><担当教員名></th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>第 1 回：生体リズム</td><td>熊澤 武志</td></tr> <tr><td>第 2 回：細胞と細胞周期</td><td>熊澤 武志</td></tr> <tr><td>第 3 回：遺伝子の発現とその制御</td><td>熊澤 武志</td></tr> <tr><td>第 4 回：遺伝子操作技術と遺伝子治療</td><td>熊澤 武志</td></tr> <tr><td>第 5 回：フリーラジカルとストレス</td><td>熊澤 武志</td></tr> <tr><td>第 6 回：がんの生物学</td><td>熊澤 武志</td></tr> <tr><td>第 7 回：血液型の科学</td><td>熊澤 武志</td></tr> <tr><td>第 8 回：中間のまとめとテスト</td><td>熊澤 武志</td></tr> <tr><td>第 9 回：薬物依存</td><td>熊澤 武志</td></tr> <tr><td>第10 回：放射線の生物への影響</td><td>熊澤 武志</td></tr> <tr><td>第11 回：幹細胞と再生医療</td><td>熊澤 武志</td></tr> <tr><td>第12 回：DNA鑑定と個人識別</td><td>黒崎 久仁彦</td></tr> <tr><td>第13 回：出生前診断</td><td>熊澤 武志</td></tr> <tr><td>第14 回：生命科学の倫理</td><td>長谷川 智華</td></tr> <tr><td>第 15 回：生命と死・まとめ</td><td>熊澤 武志</td></tr> </tbody> </table>	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	第 1 回：生体リズム	熊澤 武志	第 2 回：細胞と細胞周期	熊澤 武志	第 3 回：遺伝子の発現とその制御	熊澤 武志	第 4 回：遺伝子操作技術と遺伝子治療	熊澤 武志	第 5 回：フリーラジカルとストレス	熊澤 武志	第 6 回：がんの生物学	熊澤 武志	第 7 回：血液型の科学	熊澤 武志	第 8 回：中間のまとめとテスト	熊澤 武志	第 9 回：薬物依存	熊澤 武志	第10 回：放射線の生物への影響	熊澤 武志	第11 回：幹細胞と再生医療	熊澤 武志	第12 回：DNA鑑定と個人識別	黒崎 久仁彦	第13 回：出生前診断	熊澤 武志	第14 回：生命科学の倫理	長谷川 智華	第 15 回：生命と死・まとめ	熊澤 武志
<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>																																
第 1 回：生体リズム	熊澤 武志																																
第 2 回：細胞と細胞周期	熊澤 武志																																
第 3 回：遺伝子の発現とその制御	熊澤 武志																																
第 4 回：遺伝子操作技術と遺伝子治療	熊澤 武志																																
第 5 回：フリーラジカルとストレス	熊澤 武志																																
第 6 回：がんの生物学	熊澤 武志																																
第 7 回：血液型の科学	熊澤 武志																																
第 8 回：中間のまとめとテスト	熊澤 武志																																
第 9 回：薬物依存	熊澤 武志																																
第10 回：放射線の生物への影響	熊澤 武志																																
第11 回：幹細胞と再生医療	熊澤 武志																																
第12 回：DNA鑑定と個人識別	黒崎 久仁彦																																
第13 回：出生前診断	熊澤 武志																																
第14 回：生命科学の倫理	長谷川 智華																																
第 15 回：生命と死・まとめ	熊澤 武志																																

アクティブ ラーニング	授業では小テストやリアクションペーパーの作成などに取り組んでもらいます。
評価方法	中間テスト（40%）、定期試験（40%）、平常点（20%）を総合的に評価します。平常点には小テスト、リアクションペーパー、レポート、授業への取り組みなどが含まれます。
課題に対する フィード バック	小テストは採点後に返却し、必要に応じて解説します。また、リアクションペーパーは毎時間提出してもらいますが、寄せられた質問、感想、コメントなどで重要なものは、次回の授業で回答したり紹介したりします。
指定図書	なし
参考図書	授業中に随時連絡
事前・ 事後学修	授業で使う資料を授業中あるいは事前に配付したりしますので、事前・事後学修に活用して下さい。なお、この授業では、事前学修 40 分程度、事後学修 40 分程度を費やします。
オフィス アワー	熊澤武志（1716 研究室:takeshi-ku@seirei.ac.jp） 講義終了～18:00 まで質問を受け付けます。詳細は初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	なし

科目名	教育原理
科目責任者	成松 美枝
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	教員免許状の取得を目指す学生が、教員として現場で教育活動に従事する際に、最低限必要と思われる「教育の原理」の基礎を理解することを目的とする。 「教育はどういう営みか」という基本的な問いに始まり、日本と諸外国の教育の思想と歴史を理解し、現代における教育の役割と意義について考える。
到達目標	1. 教育とは何か、その意義と目的について理解し、説明できるようにする。 2. わが国と欧米諸国の学校教育の歴史を理解し、古代、中世、近代、現代におけるその特徴を明できるようにする。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：オリエンテーション（授業の進め方と評価について） 第 2 回：教育の意義と目的（形成と教育 教育とは何か?） 第 3 回：教育の意義と目的（遺伝の重要性と限界） 第 4 回：教育の意義と目的（自然環境と社会環境） 第 5 回：教育の意義と目的（社会の再生産と教育） 第 6 回：教育の歴史（欧米・西洋教育史 古代） 第 7 回：教育の歴史（欧米・西洋教育史 中世） 第 8 回：教育の歴史（欧米・西洋教育史 近代 子どもの発見） 第 9 回：教育の歴史（欧米・西洋教育史 近代 産業革命の影響） 第 10 回：教育の歴史（欧米・西洋教育史 近代公教育制度の完成） 第 11 回：教育の歴史（欧米・西洋教育史 福祉国家と教育 ） 第 12 回：教育の歴史（欧米・西洋教育史 中世・近代） 第 13 回：教育の歴史（欧米・西洋教育史 近代・現代・公教育制度の成立と発展） 第 14 回：教育の歴史（日本教育史：中世・近代） 第 15 回：教育の歴史（日本教育史：近代・現代）

アクティブ ラーニング	グループ・ディスカッション、キーワードレポート、復習テスト
評価方法	授業内評価点（60% 小テスト・提出レポート 50% + 授業態度 10%）+ 定期テスト（40%） ＊毎回の授業の最後には、小テストを実施し評価する。キーワードレポートは、ループリック 評価を行う。
課題に対する フィード バック	各種テストの解答例の提示、リアクション・ペーパーの質問への回答のスライド提示
指定図書	なし。授業中に配布するテキスト・プリントを使用する。
参考図書	黒崎勲、大田直子『学校をよりよく理解するための教育学1 教育の原理』学事出版、2005 年
事前・ 事後学修	事前事後の学修活動として、毎回配布するテキスト・プリントを最低 3 回は熟読して来てくだ さい。提出課題をしっかりと取り組んで下さい。提出課題の修正を次回までにしっかりとやってき て下さい。目安時間 40 分
オフィス アワー	月曜日 2 限目 1711 研究室 E-mail: mie-n@seirei.ac.jp で予約をして来室してください。
実務経験に 関する記述	本科目は「中学校教諭・高校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する 科目です。

科目名	教育心理学
科目責任者	長峰 伸治
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	学校における児童生徒の主体的な学習を支えるために知っておくべき学習過程、動機づけ、対人関係、適応・不適応などに関する基本的事項を説明し、児童生徒の発達を踏まえた指導や関わりの基礎となる考え方を修得できるようにする。
到達目標	1. 児童生徒の学習の形態や概念及びその過程についての基本的な知識・理論を理解する。 2. 児童生徒の主体的な学習を支える動機づけ、集団（対人関係）、教育評価等の基本的事項とその意義について理解する。 3. 児童生徒の主体的な学習活動を支えるために、学校における適応・不適応の基本的事項について理解し、児童生徒に対する指導と関わりについて考える。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名> 第 1 回：教育心理学を学ぶことの意義 長峰伸治 第 2 回：動機づけ・やる気を高める 1（内発的／外発的動機づけ） 長峰伸治 第 3 回：動機づけ・やる気を高める 2（原因帰属、学習性無力感） 長峰伸治 第 4 回：動機づけ・やる気を高める 2（自己効力、目標設定） 長峰伸治 第 5 回：記憶について（短期記憶、長期記憶、忘却） 長峰伸治 第 6 回：学習理論について 1（古典的／道具的条件づけ） 長峰伸治 第 7 回：学習理論について 2（観察学習、代理強化） 長峰伸治 第 8 回：学習の形態・教授方法について 長峰伸治 第 9 回：教育評価（児童生徒をどう評価するのか） 長峰伸治 第 10 回：児童生徒－教師関係（ピグマリオン効果） 長峰伸治 第 11 回：学級という集団（集団規範、集団圧力、凝集性） 長峰伸治 第 12 回：学校における適応と不適応 1（総論） 長峰伸治 第 13 回：学校における適応と不適応 2（いじめ） 長峰伸治 第 14 回：学校における適応と不適応 3（不登校） 長峰伸治 第 15 回：学校における養護教諭の役割 津田聡子

アクティブ ラーニング	・クリッカーによる双方向的な授業を行う。 ・授業で扱うトピックの関する問いについてグループで議論して、全体で共有する。
評価方法	定期試験 70%, 授業への取り組み状況 30% (リアクションペーパー、ムードルでの事後課題、クリッカーの回答を含む)
課題に対する フィード バック	前回のリアクションペーパーの感想や質問へのコメントや回答、及び、ムードルでの事後課題の解説などをパワーポイントで映しながら口頭で行う。また、前回の内容のおさらいのための設問(2～3問)をクリッカーで回答してもらい、その場で結果と解説をフィードバックする。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・ 事後学修	授業中配布された資料・プリントに沿って復習を行う。また、ムードルでの事後課題に取り組む。さらに、講義内容について疑問や詳しく知りたいことがある場合は、図書やインターネットなどで自ら積極的に調べる。これらの学修を 40 分程度行うこと。
オフィス アワー	長峰伸治（看護学部）1708 研究室 shinji-n@seirei.ac.jp 対応できる時間については初回授業時に提示する。直接研究室に来ていただいても良いが、会議等で不在の時もあるので、事前にメールで連絡いただけると、確実に時間をとって対応できる。メールでの相談は随時受け付けている。
実務経験に 関する記述	なし

科目名	物理学
科目責任者	津森 伸一
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 教養基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	「お年寄りとはなぜ杖をつくのか？」この質問に明快な回答ができるだろうか。杖をつかないと転倒することは感覚的に理解できるが、誰もが納得できるよう論理的に説明するのは難しい。物理学は自然界における現象や性質を理解することを目的とする学問分野であり、自然現象の「なぜ？」の幾つかを解決する。本授業では、物理学の一部の内容を対象に基礎的な概念を習得することを目指す。なお、高等学校「基礎物理」「物理」を履修していないあるいは内容の理解に自信のない学生にも配慮する。
到達目標	1. 図やグラフなどを用いて物理現象を視覚的に表現できる。 2. 法則の数式的意味を理解し、物理現象を数式として表現できる。 3. 物理法則や数式の持つ意味を言葉で分かり易く説明できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：ガイダンス、物理学とは何か、物理量とその表し方 第2回：変位・速度・加速度、等速直線運動、等加速度直線運動 第3回：力の合成と分解、ニュートンの第1法則（慣性の法則） 第4回：ニュートンの第2法則（運動の法則） 第5回：ニュートンの第3法則（作用・反作用の法則） 第6回：重力、垂直抗力 第7回：摩擦力 第8回：問題演習（1） 第9回：運動方程式 第10回：仕事量、エネルギー（位置エネルギー、運動エネルギー、食物エネルギー） 第11回：力のモーメント、ボディメカニクス 第12回：問題演習（2） 第13回：流体と浮力 第14回：ベルヌーイの定理、血圧と点滴 第15回：問題演習（3）

アクティブ ラーニング	ビデオ閲覧と学習管理システムを用いた確認用の小テストを事前課題とする反転授業を実施する。授業においてはグループによる問題演習を行う。
評価方法	小テスト 30%, リアクションペーパー 10%, 定期試験 60%として評価する。
課題に対する フィード バック	学習管理システムを用いた小テストを行い、解答後即座に正解・解説と採点結果を返す。また、授業毎のリアクションペーパーを学習管理システムにより提出してもらい、質問や意見については個別に返信する。
指定図書	中野正博『看護・医療技術者のためのたのしい物理』，日本理工出版会
参考図書	・高等学校「物理基礎」「物理」教科書 ・演習用の問題プリントを適宜配布する
事前・ 事後学修	事前学修として、指定されたビデオ教材を閲覧し小テストを行うこと。事後学修として、授業中に指定する演習問題を解き理解を深めること。目安時間 40 分。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3517 研究室 時間：木曜日 9 時～12 時 上記以外でもメール（shinichi-t@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	なし

科目名	化学
科目責任者	有信 哲哉
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 教養基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	生命現象を理解するための基礎となる化学的な考え方を身につける。
到達目標	1. 原子から分子がどのようにつくられるかを説明できる。 2. 有機化合物の立体構造を説明できる。 3. 重要な有機化合物の性質・反応性を説明できる。 4. 生体を構成する分子の構造的特徴について述べることができ、その役割を説明できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：物質の構造 第2回：電子配置 第3回：周期表、化学結合と分子間の結合、水素結合 第4回：電気陰性度、極性と分子の形、VSEPR 則、結合角、骨格構造式 第5回：官能基、炭化水素① アルカン 第6回：炭化水素② シクロアルカンと立体配座 第7回：炭化水素③ 不飽和炭化水素 第8回：付加反応 第9回：アルコール、エーテル、アルデヒド、ケトン 第10回：カルボン酸とエステル、油脂 第11回：芳香族化合物 第12回：油脂 第13回：単糖類 第14回：二糖類、多糖類 第15回：アミノ酸、タンパク質

アクティブ ラーニング	基本的に大教室での知識伝達型の講義であるが、講義中学生自身が分子模型を組み立てることで自ら考える時間を与える。また、講師との質疑応答なども活発に行う。
評価方法	原則筆記試験 100%
課題に対する フィード バック	講義中に行う小テストに関しては、詳細な解説、解答例の提示を行う。
指定図書	橋爪健作著 橋爪のゼロから劇的！にわかる 無機・有機化学の授業（旺文社） 橋爪健作著 基礎からのジャンプアップノート 無機・有機化学（旺文社） HGS 分子構造模型 A 型セット 有機化学入門用 （丸善出版） ISBN：978-4-621-30126-5
参考図書	なし
事前・ 事後学修	講義後の復習に時間を割くこと。ノート、教科書を読み返し、さらに関連する演習問題を解き、理解を深めること（40分以上）。
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	なし

科目名	統計学の基礎
科目責任者	隆 朋也
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 教養基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	看護学を学ぶ過程では、医療に関するさまざまなデータを扱うことになる。それらのデータを処理するためには数学や統計学の基本的な知識・理論が必要となる。この科目では、看護学の学修に必要な数学・統計学の基礎となる知識や計算力、思考力の修得を目的とする。単に計算方法を暗記するのではなく、考える過程や理論を修得することに重点を置く。
到達目標	1. 看護計算や統計学の基礎となる数学の基礎知識を理解できる。 2. 問題を論理的に理解し、計算式を立て、これを解くことができる。 3. データの特徴をとらえ、図表や指標を用いて示すことができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：ガイダンス、基礎知識の確認 第 2 回：単位の換算 第 3 回：割合の計算 第 4 回：比の計算 第 5 回：濃度の計算 第 6 回：速さと時間と量の関係 第 7 回：圧力の計算 第 8 回：演習問題と解説 (1) 第 9 回：統計学とは、データの分類 第 10 回：データの特徴を図表で示す 第 11 回：データの特徴を数値で示す 第 12 回：2 つのデータの間係を図表で示す 第 13 回：データの分布と確率 第 14 回：確率に基づくデータの分析 第 15 回：演習問題と解説 (2)、まとめ

アクティブ ラーニング	学習管理システムを用いて授業資料や関連資料、演習問題の提供などを行います。
評価方法	定期試験 100%
課題に対する フィード バック	演習問題の解説やリアクションペーパーに対するコメントなど、口頭や資料配布、学習管理システムへの提示などによって行います。
指定図書	なし 毎回、講義用プリントを配布します。
参考図書	必要に応じて随時紹介します。
事前・ 事後学修	事前学修：次回の学修内容に関する学習管理システム上の資料に目を通しておくこと（10分）。 事後学修：配布資料・演習問題等を再確認して、それぞれの講義のポイントを整理しておくこと（30分）。前回までの授業内容を習得していることが受講の前提となります。 授業で使用するスライドデータや関連資料を随時学習管理システムに掲載します。事前・事後学修に活用してください。
オフィス アワー	隆朋也：看護学部，1605 研究室（1 号館 6 階） 基本的に木曜日 15 時～17 時としますが、その他の曜日、時間でも可能な限り対応します。 事前にメール（tomoya-t@seirei.ac.jp）で連絡をしてください。
実務経験に 関する記述	なし

科目名	基礎講座
科目責任者	熊澤 武志
単位数他	1 単位 (15 時間) 必修 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP3 教養基礎
科目の位置付	様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係能力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	大学生生活や学修習慣などの自己管理・時間管理能力を身につけ、人と接する態度・礼節などを理解することは、大学初年次生に求められるスチューデント・スキルである。本科目では、初年次に身につけるべき学修習慣のほか、協調性やコミュニケーション技術を修得し、大学で学ぶための人間関係を構築できる基礎力を身につけることを目的とする。
到達目標	1. 基礎的な学習方法を理解し、学修習慣を身につける。 2. 学修ポートフォリオの意義と作成方法を理解する。 3. 基礎的なコミュニケーション技術を習得し、自らの意見の伝達ができる。 4. 多様な物の見方や異なる価値観を理解しようとする態度を身につける。 5. 人と接する態度・礼節などの一般常識や自己管理、自己責任、規範意識を理解し、他者を尊重した行動ができる。 6. 学生間の人間関係を構築できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名> 第1回：オリエンテーション 熊澤、檜原・式守・津田・鈴木知 ・ 第2回から8回の授業の内容と課題を理解する。 ・ 大学で学修することの意義を学ぶ。 第2回：他者紹介 安田・熊澤・津田・式守・隆・鈴木知 ・ 学生間でインタビューを行い、その内容をまとめ、他者紹介を行う。 ・ グループ内で感想を語り合い、他者紹介を振り返る。 第3回：ポートフォリオ、ループリックとは 津田・熊澤 ・ ポートフォリオの目的、作成法、活用法、評価基準を理解する。 ・ ループリックによる評価法を理解する。 第4回：インタビューガイドの作成 式守・熊澤・鈴木知・津田・隆・成松 ・ 他者紹介で学んだことを整理する。 ・ インタビュー内容をまとめる方法を理解する。 ・ インタビュー対象者に対するインタビューガイドを作成する。 第5・6回：グループディスカッションと発表（3教室使用） 熊澤・式守・津田・隆・鈴木知・成松 ・ 各自のインタビューレポートをグループで報告する。 ・ 「コミュニケーションとは」についてグループディスカッションを行い、その結果を発表できる形にまとめる。 ・ 発表会でグループ毎に発表する。 ・ 質疑応答や意見交換を積極的に行い、理解を深める。 第7・8回：先輩の姿を知る 鈴木知・津田・熊澤 ・ 看護師（病棟・訪問看護ステーション）、保健師、助産師、養護教諭の各先輩からコミュニケーションをテーマにした講話を聞く。 ・ 専門職に必要なコミュニケーションについて考え、グループディスカッションする。 ・ 先輩と質疑応答・意見交換を積極的に行い、理解を深める。

アクティブ ラーニング	演習科目です。グループ学修、ロールプレイング等を行います。 基礎講義と基礎演習で共通のポートフォリオを作成します。
評価方法	リアクションペーパー（20%）、インタビューレポート（30%）、グループ発表（20%）、ポートフォリオ（30%）を総合的に評価します。なお、インタビューレポートは、ルーブリックを用いて評価します。
課題に対する フィード バック	リアクションペーパーは授業終了時に回収し、担当教員が確認後、次回の授業で返却します。 また、質問等は必要に応じて全体にフィードバックします。その他の提出物についても、担当教員が確認した後に返却します。
指定図書	『最新版 大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康 著、講談社現代新書、2018（基礎演習の指定図書と同じ）
参考図書	『看護コミュニケーション 基礎から学ぶスキルとトレーニング』篠崎恵美子・藤井徹也 著、医学書院、2015
事前・ 事後学修	<授業時間外での学修内容と学修時間の目安> 事前学修：毎時間提示される課題を準備する（40 分程度）。 事後学修：授業の学びをまとめ、記録する（40 分程度）。
オフィス アワー	科目責任者（熊澤）の研究室は 1716 です。 事前にメール（takeshi-ku@seirei.ac.jp）で連絡してください。
実務経験に 関する記述	なし

科目名	基礎演習																								
科目責任者	隆 朋也																								
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 1 セメスター																								
DP 番号と科目領域	DP3 教養基礎																								
科目の位置付	様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係能力と論理的表現力を身につけている。																								
科目概要	大学生活や学修習慣などの自己管理・時間管理能力を身につけ、主体的に学ぶ姿勢とそのための技能を修得することは、大学在学中はもとより、生涯のさまざまな場面で学び・成長するために欠かせないスタディ・スキルである。本科目では、大学での学修に必要な基礎技能を修得し、自ら学ぶ姿勢、自分に適した学修方法を確立することを目的とする。																								
到達目標	1. 大学での学修方法が理解できる。 2. 多様なものの見方や異なる価値観を理解できる。 3. 根拠に基づき、自分の意見や主張を明確に述べることができる。 4. 文献、雑誌、インターネットなどからテーマに沿った情報や資料を収集・整理できる。 5. 科学的、論理的な視点でレポートを作成できる。 6. 能動的で自律的・自立的な学習態度を身に付けることができる。																								
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th><授業内容・テーマ等></th><th><担当教員名></th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1 回 ガイダンス／大学で看護を学ぶこと 本科目の概要説明、看護教員による講話</td><td>隆朋也、室加千佳</td></tr> <tr> <td>第 2 回 レポートのルール／引用文献・参考文献 引用・参考文献の扱い方、文献・資料の探し方を理解する</td><td>隆朋也、津田聡子</td></tr> <tr> <td>第 3 回 見聞きした内容を記録する 主張の根拠となる情報を正確にメモできる</td><td>隆朋也、津田聡子</td></tr> <tr> <td>第 4 回 文章を要約する 論文や書籍に書かれた内容を理解しやすくまとめる</td><td>隆朋也、渥美陽子、津田聡子</td></tr> <tr> <td>第 5 回 伝わりやすい文章の書き方 文章の構成の仕方の基本を理解する</td><td>隆朋也、津田聡子</td></tr> <tr> <td>第 6 回 レポートの組み立て方 アウトライン・パラグラフ・トピックセンテンスについて</td><td>隆朋也、渥美陽子</td></tr> <tr> <td>第 7 回 学生相互によるレポート作成 自分の作成したレポートを発表し、他者の目を通してフィードバックする</td><td>隆朋也、渥美陽子、津田聡子</td></tr> <tr> <td>第 8 回 プレゼンテーションとグループ発表について パワーポイントを用いた口頭発表の方法</td><td>隆朋也、渥美陽子、津田聡子</td></tr> <tr> <td>第 9 回 グループワークオリエンテーション 6 名程度のグループに分かれ、各グループでサブテーマを設定し、サブテーマに沿った資料を収集し、発表する。</td><td>隆朋也、津田聡子、渥美陽子</td></tr> <tr> <td>第 10・11・12 回 グループワーク テーマについての情報収集・ディスカッション グループ発表の準備、プレゼンテーションの資料作り</td><td>隆朋也、津田聡子、渥美陽子</td></tr> <tr> <td>第 13・14・15 回 グループ発表・まとめ 隆、津田、渥美、熊澤、安田、成松、式守、鈴木、大村、小平、室加、山本、乾 パワーポイントを用いた口頭発表、ルーブリックを活用した他者評価 授業内容の振り返り、教員からのフィードバック</td><td></td></tr> </tbody> </table>	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	第 1 回 ガイダンス／大学で看護を学ぶこと 本科目の概要説明、看護教員による講話	隆朋也、室加千佳	第 2 回 レポートのルール／引用文献・参考文献 引用・参考文献の扱い方、文献・資料の探し方を理解する	隆朋也、津田聡子	第 3 回 見聞きした内容を記録する 主張の根拠となる情報を正確にメモできる	隆朋也、津田聡子	第 4 回 文章を要約する 論文や書籍に書かれた内容を理解しやすくまとめる	隆朋也、渥美陽子、津田聡子	第 5 回 伝わりやすい文章の書き方 文章の構成の仕方の基本を理解する	隆朋也、津田聡子	第 6 回 レポートの組み立て方 アウトライン・パラグラフ・トピックセンテンスについて	隆朋也、渥美陽子	第 7 回 学生相互によるレポート作成 自分の作成したレポートを発表し、他者の目を通してフィードバックする	隆朋也、渥美陽子、津田聡子	第 8 回 プレゼンテーションとグループ発表について パワーポイントを用いた口頭発表の方法	隆朋也、渥美陽子、津田聡子	第 9 回 グループワークオリエンテーション 6 名程度のグループに分かれ、各グループでサブテーマを設定し、サブテーマに沿った資料を収集し、発表する。	隆朋也、津田聡子、渥美陽子	第 10・11・12 回 グループワーク テーマについての情報収集・ディスカッション グループ発表の準備、プレゼンテーションの資料作り	隆朋也、津田聡子、渥美陽子	第 13・14・15 回 グループ発表・まとめ 隆、津田、渥美、熊澤、安田、成松、式守、鈴木、大村、小平、室加、山本、乾 パワーポイントを用いた口頭発表、ルーブリックを活用した他者評価 授業内容の振り返り、教員からのフィードバック	
<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>																								
第 1 回 ガイダンス／大学で看護を学ぶこと 本科目の概要説明、看護教員による講話	隆朋也、室加千佳																								
第 2 回 レポートのルール／引用文献・参考文献 引用・参考文献の扱い方、文献・資料の探し方を理解する	隆朋也、津田聡子																								
第 3 回 見聞きした内容を記録する 主張の根拠となる情報を正確にメモできる	隆朋也、津田聡子																								
第 4 回 文章を要約する 論文や書籍に書かれた内容を理解しやすくまとめる	隆朋也、渥美陽子、津田聡子																								
第 5 回 伝わりやすい文章の書き方 文章の構成の仕方の基本を理解する	隆朋也、津田聡子																								
第 6 回 レポートの組み立て方 アウトライン・パラグラフ・トピックセンテンスについて	隆朋也、渥美陽子																								
第 7 回 学生相互によるレポート作成 自分の作成したレポートを発表し、他者の目を通してフィードバックする	隆朋也、渥美陽子、津田聡子																								
第 8 回 プレゼンテーションとグループ発表について パワーポイントを用いた口頭発表の方法	隆朋也、渥美陽子、津田聡子																								
第 9 回 グループワークオリエンテーション 6 名程度のグループに分かれ、各グループでサブテーマを設定し、サブテーマに沿った資料を収集し、発表する。	隆朋也、津田聡子、渥美陽子																								
第 10・11・12 回 グループワーク テーマについての情報収集・ディスカッション グループ発表の準備、プレゼンテーションの資料作り	隆朋也、津田聡子、渥美陽子																								
第 13・14・15 回 グループ発表・まとめ 隆、津田、渥美、熊澤、安田、成松、式守、鈴木、大村、小平、室加、山本、乾 パワーポイントを用いた口頭発表、ルーブリックを活用した他者評価 授業内容の振り返り、教員からのフィードバック																									

アクティブラーニング	演習科目です。講義形式の授業・演習の他に、グループワークを行います。 グループワークでは進捗・成果の報告に学習管理システムを活用します。 基礎演習、基礎講座で共通のポートフォリオを作成します。
評価方法	リアクションペーパー（30%）、レポート（30%）、 グループ発表資料と発表内容（40%）
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーは、授業終了時に回収し、次回授業で全体にフィードバックします。 レポートは、ルーブリックを活用して自己評価・他者評価を行います。 グループ発表は、会場で教員が口頭でフィードバックを行います。また、ルーブリックを活用して評価を行います。
指定図書	『最新版 大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康、講談社現代新書
参考図書	『看護学生のための よくわかる大学での学び方』前原澄子・遠藤俊子、金芳堂
事前・事後学修	事前学修：各講義に事前学修課題が提示される。文献を調べたり、自分の考えをまとめたりして授業に臨む（25 分程度）。 事後学修：授業の学びをまとめ、ポートフォリオに記録する（15 分程度）。
オフィスアワー	科目責任者（看護学部：隆）の研究室は 1605 です。 基本的に木曜日 15 時～17 時としますが、その他の曜日、時間でも可能な限り対応します。 事前にメール（tomoya-t@seirei.ac.jp）で連絡をしてください。
実務経験に関する記述	なし

科目名	社会福祉概論
科目責任者	野田 由佳里
単位数他	2 単位 (30 時間) 必修 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	・現代社会における社会福祉問題について考え、「社会福祉」とは何かを学びます。その福祉サービスの考え方を学び、社会福祉の理念と実際を学びます。 ・社会福祉の基本と社会福祉の各分野を学び、医療を福祉の協働の重要性の理解を深めます。
到達目標	社会福祉の基礎概念を説明できる。 社会福祉関係法のサービスの現状や課題を説明できる。 自らの専門性を意識して医療と福祉との協働のあり方を説明できる。 看護学との比較を通して基礎知識を学ぶ動機付けができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：現代社会における社会福祉：基礎概念 事前課題 1：社会福祉の意味・社会福祉法第 3 条・第 4 条を調べる 第 2 回：福祉サービス：社会福祉の仕組み 事前課題 2：「日常生活」の意味を調べる 第 3 回：社会福祉と「日常生活」の意味を考える 事前課題 3：生活の営みを考える 第 4 回：「日常生活を営む」ことの支援の意味を考える 事前課題 4：憲法第 25 条を調べる 第 5 回：憲法第 25 条「最低限度の生活」と社会福祉の歩み：社会保障・公的扶助 事前課題 5：ホームレスの定義を調べる 第 6 回：日本の住宅問題を社会福祉から考える 事前課題 6：日常生活と社会生活の違いを調べる 第 7 回：「日常生活」と「社会福祉」を障害者福祉の歩みから考える 事前課題 7：ケアマネジャーの役割を調べる 第 8 回：個別支援とケアマネジメントの登場：社会福祉の援助と方法 事前課題 8：病院の歴史を調べる 第 9 回：医療と社会福祉 事前課題 9：「地域包括ケアシステム」の意味を調べる 第 10 回：医療機関の役割の変化と地域包括ケアシステム 事前課題 10：協働の意味を調べる 第 11 回：医療と介護・福祉の協働 事前課題 11：利用者支援の仕組みを調べる 第 12 回：利用者支援 事前課題 12：社会福祉士・介護福祉士の意味を調べる 第 13 回：社会福祉職の役割と実際 事前課題 13：社会福祉の課題を調べる 第 14 回：少子高齢社会・人口減少社会と社会福祉の今後：社会福祉の課題 第 15 回：まとめ

アクティブ ラーニング	事前課題に取り組み、当該内容を理解して授業に臨んでください。発言係の担当になった際は授業を牽引するのは学生自らだという自負を持って積極的な議論ができるよう私見をまとめてください
評価方法	事前課題・事後課題レポート 15 回を含むミニレポート 3 回（90%）・発言係（10%）
課題に対する フィード バック	事後課題の解説は授業内で行います。またリアクションペーパーに関しては、授業内やMoodleなどを活用し、丁寧なフィードバックを心掛けます。
指定図書	山縣文治・岡田忠克編「よくわかる社会福祉」 ミネルヴァ書房
参考図書	川上昌子「社会福祉原論読本」学文社 山辺朗子「ジェネラリスト・ソーシャルワークの基盤と展開」 ミネルヴァ書房
事前・ 事後学修	【事前学習】毎回事前課題を提示致しますので 25 分程度は取り組むようにしてください。また初回授業時に配布する講義予定表を参考に指定図書の該当頁を熟読してから講義に臨んでください。テキストを 15 分以上読んでから授業に臨みましょう。 【事後学修】講義後、40 分程度振り返りレポートを作成して毎回のポイントをまとめてください。
オフィス アワー	社会福祉学部所属の野田由佳里研究室（2706 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。 (yukari-n@seirei.ac.jp)
実務経験に 関する記述	本科目は「社会福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	家族関係論
科目責任者	佐藤 弘明
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 2 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP2 専門基礎
科目の 位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	現代の家族に起きている変化と、変化を生んだ要因について社会的に学び、医療従事者として必要な家族を見る目を養う。また現代家族をめぐるさまざまな問題や人間関係について、心理学的立場から理解を深める。
到達目標	1. 自ら経験する現実の家族を人類学的、社会的観点から相対化することによって家族および家族関係について理解を深める。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名> 第 1 回： 家族とは？ (1) / 世界の多様な家族 佐藤弘明 第 2 回： 家族とは？ (2) / 日本の家族の過去と現在 佐藤弘明 第 3 回： 家族とは？ (3) / 日本の家族の過去と現在 佐藤弘明 第 4 回： 家族とは？ (4) / 日本の家族の過去と現在 佐藤弘明 第 5 回： 夫と妻 (1) / 少子化を通してみる夫と妻 佐藤弘明 第 6 回： 夫と妻 (2) / 少子化を通してみる夫と妻 佐藤弘明 第 7 回： 親と子/ 少子化を通してみる親と子 佐藤弘明 第 8 回： 祖父母と孫/ 少子化を通してみる祖父母と孫 佐藤弘明 第 9 回： 家族とは何か (心理学の立場から) 柴田俊一 第 10 回： システムとしての家族 柴田俊一 第 11 回： 児童虐待と家族 柴田俊一 第 12 回： 夫婦関係とその危機 (1) / 夫婦関係の形成と発達 柴田俊一 第 13 回： 夫婦関係とその危機 (2) / 事例を通して 柴田俊一 第 14 回： 親子関係とその危機 (1) / 子どもが育つ場としての家族 柴田俊一 第 15 回： 親子関係とその危機 (2) / 事例を通して 柴田俊一

アクティブ ラーニング	なし
評価方法	(佐藤) 定期試験 (100%) の結果で評価する。ただし、受講態度を加算要素とする。 (柴田) レポート 100% で評価する。
課題に対する フィード バック	定期試験の解答例を提示します。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・ 事後学修	(佐藤) 講義内容をよりよく理解するには質問が必須です。質問のためには授業前後にノート の再読が必要です。少なくとも 30 分はかけてください。
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	なし

科目名	生涯発達心理学
科目責任者	長峰 伸治
単位数他	2 単位 (30 時間) 必修 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	この授業では、人間のライフサイクルの各発達段階(乳児期～高齢期)における発達課題とその意味について、エリクソンなどのいくつかの発達理論や最新の研究知見を用いて、特に対人関係や自己の発達に焦点をあてて説明する。また、発達障害の基本的な特徴についても説明する。
到達目標	1. 看護専門職に必要な「乳幼児期から高齢期に至るまでの各発達段階の発達課題や心理的特徴」および「発達障害に関する定義や特徴」の基本的事項について理解する。 2. 1の知識を得ることで、これまでにどのような発達の道筋を経てきたのか、今の発達段階での課題をどのように乗り越えているのかなど、発達の観点から自分や他者を理解する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回： ライフサイクルにおける発達とは・発達における「遺伝」と「環境」 第 2 回： 胎生期・乳児期の発達（愛着の形成） 第 3 回： 乳児期の発達（基本的信頼感） 第 4 回： 幼児期前半の発達 1（第 1 次反抗期、言語能力の発達） 第 5 回： 幼児期前半の発達 2（自律性、トイレトレーニング） 第 6 回： 幼児期後半の発達（積極性、遊びの発達） 第 7 回： 児童期の発達（勤勉性、ギャングエイジ） 第 8 回： 思春期の発達（親離れ・子離れ、友人関係） 第 9 回： 青年期の発達：（アイデンティティの形成） 第 10 回： 初期成人期の発達（親密性、キャリア発達） 第 11 回： 中年期の発達 1（中年期危機） 第 12 回： 中年期の発達 2（アイデンティティの再体制化） 第 13 回： 高齢期の発達（エイジング） 第 14 回： 発達障害の理解と支援 1（学習障害、注意欠如多動性障害） 第 15 回： 発達障害の理解と支援 2（自閉症スペクトラム障害）

アクティブ ラーニング	クリッカーによる双方向的な授業を行う。
評価方法	定期試験 70%, 授業への取り組み状況 30% (リアクションペーパー、ムードルでの事後課題、クリッカーの回答を含む)
課題に対する フィード バック	前回のリアクションペーパーの感想や質問へのコメントや回答、及び、ムードルでの事後課題の解説などをパワーポイントで映しながら口頭で行う。また、前回の内容のおさらいのための設問(2~3問)をクリッカーで回答してもらい、その場で結果と解説をフィードバックする。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・ 事後学修	授業中配布された資料・プリントに沿って復習を行う。また、ムードルでの事後課題に取り組む。さらに、講義内容について疑問や詳しく知りたいことがある場合は、図書やインターネットなどで自ら積極的に調べる。これらの学修を 40 分程度行うこと。
オフィス アワー	長峰伸治（看護学部）1708 研究室 shinji-n@seirei.ac.jp 対応できる時間については初回授業時に提示する。直接研究室に来ていただいても良いが、会議等で不在の時もあるので、事前にメールで連絡いただけると、確実に時間をとって対応できる。メールでの相談は随時受け付けている。
実務経験に 関する記述	なし

科目名	解剖学 I
科目責任者	顧 寿智
単位数他	2 単位 (30 時間) 必修 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	解剖学は医学の最も基礎になる学問のひとつである。実際、正しい解剖の知識が無ければ、正しい医療は望むべくもないであろう。解剖学では下記の内容について要点を講義する。さらに、浜松医科大学での解剖実習見学を通して、人体の正常な構造の知識を身につけさせる。専門科目履修のための基礎を築く。
到達目標	1. 人体の構成について述べることができる。 2. 運動器系の構造上の特徴を述べることができる。 3. 心臓血管系の構造と機能について述べることができる。 4. 内臓系の基本的な構造と機能について述べることができる。 5. 解剖実習では知識の確認だけでなく、生命倫理の基礎をつくることができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：オリエンテーション、解剖学総論（解剖学用語、人体の構成） 第 2 回：組織学総論（細胞、組織） 第 3 回：消化器系（消化管の管壁、口、咽頭、食道、） 第 4 回：消化器系（胃、小腸、大腸） 第 5 回：消化器系（肝臓、胆嚢、膵臓、腹膜） 第 6 回：呼吸器系（上気道、下気道、胸膜・縦隔） 第 7 回：脈管系（心臓の構造、心臓の血管、刺激伝道系） 第 8 回：脈管系（血管の構造、循環路、リンパ系） 第 9 回：まとめ、中間テスト、実習見学の準備 第 10 回：浜松医科大学での解剖学実習見学 第 11 回：泌尿器系（腎臓、尿管、膀胱、尿道） 第 12 回：運動器系（基本構造、骨の連結、全身の骨、主な骨格筋） 第 13 回：生殖器系（男性生殖器、女性生殖器） 第 14 回：内臓系、運動器系 第 15 回：まとめ

アクティブ ラーニング	Moodle・タブレットアプリ (Visible Body など)・模型の活用、グループ学習、実習見学など
評価方法	期末試験 (70%)、レポート (10点)、中間テスト (10%)、小テスト (10%)、 を総合的に評価する。
課題に対する フィード バック	テストの解説、レポート・リアクションペーパーのコメント
指定図書	系統看護学講座『解剖生理学』坂井建雄、医学書院
参考図書	藤田恒夫著『入門人体解剖学』南江堂 『ネッター 解剖学アトラス』相磯貞和訳、南江堂 『日本人体解剖学』金子丑之助著、南山堂
事前・ 事後学修	各章の学習目標を参考し、教科書に目を通すことを前提に講義は進めます。講義内容、配布資料、演習課題などを参考し、事後学修して下さい。(1コマ当たり約40分以上) 受講のための事前準備：赤青鉛筆
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3404 研究室 時間等：毎週火曜日 12時～13時 上記以外でも随時受け付けます。不在の時にはメール (juchi-k@seirei.ac.jp) か、研究室前のボードで遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は医師の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	解剖学Ⅱ
科目責任者	顧 寿智
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	解剖学Ⅱは、解剖学Ⅰに引き続いて、下記の内容について特に神経系を重点的に解説する。人体の構造をさらに深く理解することを目指す。そして看護学に必要な人体の正常な構造の知識を身につけさせる。専門科目履修のための基礎を築く。
到達目標	1. 神経系の構成と主な機能を述べることができる。 2. 内分泌器系、感覚器系の構造と機能を述べることができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：前期のまとめ、神経組織 第 2 回：神経系（神経系の構成、脊髄） 第 3 回：神経系（脳幹） 第 4 回：神経系（小脳、間脳、大脳） 第 5 回：神経系（大脳、脳の血管） 第 6 回：神経系（脳室と脳脊髄膜） 第 7 回：神経系（脳神経）、解剖実験 第 8 回：まとめ、中間テスト 第 9 回：神経系（脊髄神経） 第 10 回：神経系（脊髄神経） 第 11 回：神経系（自律神経系） 第 12 回：内分泌器系（下垂体、甲状腺、上皮小体、膵島、副腎） 第 13 回：感覚器系（視覚器、平衡聴覚器、皮膚） 第 14 回：神経系、内分泌器系、感覚器系 第 15 回：まとめ

アクティブ ラーニング	Moodle・タブレットアプリ (Visible Body など)・模型の活用、グループ学習、実習見学など
評価方法	期末試験 (70%)、レポート (10点)、中間テスト (10%)、小テスト (10%)、 を総合的に評価する。
課題に対する フィード バック	テストの解説、レポート・リアクションペーパーのコメント
指定図書	系統看護学講座『解剖生理学』坂井建雄、医学書院
参考図書	藤田恒夫著『入門人体解剖学』南江堂 『ネッター 解剖学アトラス』相磯貞和訳、南江堂 『日本人体解剖学』金子丑之助著、南山堂
事前・ 事後学修	各章の学習目標を参考し、教科書に目を通すことを前提に講義は進めます。講義内容、配布資料、演習課題などを参考し、事後学修して下さい。(1コマ当たり約40分以上)
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3404 研究室 時間等：毎週火曜日 12時～13時 上記以外でも随時受け付けます。不在の時にはメール (juchi-k@seirei.ac.jp) か、研究室前のボードで遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は医師の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	生理学Ⅰ
科目責任者	熊澤 武志
単位数他	2 単位 (30 時間) 必修 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	生理学は生命現象のメカニズムについて学ぶ学問であり、将来看護師として、患者の健康状態を評価する上で欠くことのできないのが、この生理学の知識です。本科目は看護に必要な「人体の構造と機能」について、主に機能面を講義しますが、医学的な専門用語や知識を単に暗記するのではなく、生命活動との関連性を理解し、それらを連携・統合し看護に応用できる基礎力を身に付けることを目的とします。
到達目標	1. 消化・吸収の意義とその機能について説明できる。 2. 呼吸運動とガス交換について説明できる。 3. 循環系の意義、心臓の機能、心電図、血管系の機能、循環調節について説明できる。 4. 血液と体液の組成とその機能について説明できる。 5. 腎臓の機能、尿の生成、排尿ならびに体液の調節機構について説明できる。 6. 体温の調節機構について説明できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：ガイダンス・栄養の消化と吸収－1 第 2 回：栄養の消化と吸収－2 第 3 回：栄養の消化と吸収－3 第 4 回：栄養の消化と吸収－4 第 5 回：呼吸の生理学－1 第 6 回：呼吸の生理学－2 第 7 回：呼吸の生理学－3 第 8 回：心臓・循環の生理学－1 第 9 回：心臓・循環の生理学－2 第10 回：心臓・循環の生理学－3 第11 回：血液と体液－1 第12 回：血液と体液－2 第13 回：尿の生成とその排泄－1 第14 回：尿の生成とその排泄－2 第15 回：体温とその調節・まとめ

アクティブラーニング	授業は小テストやリアクションペーパー作成のほか、授業中に学修した内容を学生同士で教え合うペアワークも取り入れながら進めます。
評価方法	定期試験（60%）、小テスト（30%）、授業への取り組み（10%）を総合的に評価します。
課題に対するフィードバック	小テストは原則的に毎時間実施し、採点後の答案は次回の授業で返却し解説します。また、リアクションペーパーは毎時間提出してもらいますが、寄せられた質問、感想、コメントなどで重要なものは、次回の授業で回答したり紹介したりします。
指定図書	系統看護学講座 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学、坂井建雄/岡田隆夫 著、第10版、医学書院
参考図書	「カラー図解 人体の正常構造と機能 全10巻縮刷版」坂井建雄/河原克雅 編、改訂第3版、日本医事新報社
事前・事後学修	小テスト、リアクションペーパー作成等に参加して、内容の整理・理解に努めて下さい。また、授業の中で補足資料を配付したり、次回の授業で取り扱う資料を事前に配付したりしますので、事前・事後学修に活用して下さい。なお、この授業では小テストの勉強も含めて、事前学修に40分間程度、事後学修に1時間程度を費やします。
オフィスアワー	熊澤武志（1716 研究室:takeshi-ku@seirei.ac.jp） 講義終了～18:00 まで質問を受け付けます。詳細は初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	なし

科目名	生理学Ⅱ
科目責任者	熊澤 武志
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	生理学は生命現象のメカニズムについて学ぶ学問であり、将来看護師として、患者の健康状態を評価する上で欠くことのできないのが、この生理学の知識です。本科目は看護に必要な「人体の構造と機能」について、主に機能面を講義しますが、医学的な専門用語や知識を単に暗記するのではなく、生命活動との関連性を理解し、それらを連携・統合し看護に応用できる基礎力を身に付けることを目的とします。
到達目標	1. 生体防御システムについて説明できる。 2. ホルモンの種類およびその作用・調節機構について説明できる。 3. 生殖、発生、成長、老化、それぞれのメカニズムについて説明できる。 4. 神経系の機能について説明できる。 5. 感覚系の機能について説明できる。 6. 筋系の機能および筋収縮について説明できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：生体の防御機構 第 2 回：内分泌系の機能と調節－1 第 3 回：内分泌系の機能と調節－2 第 4 回：内分泌系の機能と調節－3 第 5 回：生殖と発生－1 第 6 回：生殖と発生－2 第 7 回：成長と老化 第 8 回：神経機能の基礎 第 9 回：自律神経系 第10 回：脊髄と脳－1 第11 回：脊髄と脳－2 第12 回：脳の高次機能 第13 回：感覚の生理学－1 第14 回：感覚の生理学－2 第15 回：筋肉の機能・まとめ

アクティブラーニング	授業は小テストやリアクションペーパー作成のほか、授業中に学修した内容を学生同士で教え合うペアワークも取り入れながら進めます。
評価方法	定期試験（60%）、小テスト（30%）、授業への取り組み（10%）を総合的に評価します。
課題に対するフィードバック	小テストは原則的に毎時間実施し、採点後の答案は次回の授業で返却し解説します。また、リアクションペーパーは毎時間提出してもらいますが、寄せられた質問、感想、コメントなどで重要なものは、次回の授業で回答したり紹介したりします。
指定図書	系統看護学講座 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学、坂井建雄/岡田隆夫著、第10版、医学書院
参考図書	「カラー図解 人体の正常構造と機能 全10巻縮刷版」坂井建雄/河原克雅 編、改訂第3版、日本医事新報社
事前・事後学修	小テスト、リアクションペーパー作成等に参加して、内容の整理・理解に努めて下さい。また、授業の中で補足資料を配付したり、次回の授業で取り扱う資料を事前に配付したりしますので、事前・事後学修に活用して下さい。なお、この授業では小テストの勉強も含めて、事前学修に40分間程度、事後学修に1時間程度を費やします。
オフィスアワー	熊澤武志（1716 研究室:takeshi-ku@seirei.ac.jp） 講義終了～18:00 まで質問を受け付けます。詳細は初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	なし

科目名	代謝・栄養
科目責任者	高林 ふみ代
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	まず、各栄養素の消化、吸収から代謝、老廃物の排泄にいたる一連の流れを概説し、ミクロ視点の全体像を理解できるよう概説する。次に、人の一生や疾患などの現象と栄養との関連について理解を促し、最終的に生体に現れる事象とミクロ視点の栄養素の働きを関連して理解できるよう促す。
到達目標	1. 各栄養素の消化吸収・代謝の基礎を理解する。 2. ライフステージと栄養の必要性を理解する。 3. 生活習慣病の原因や治療と栄養の関連を理解する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：栄養学を学ぶことの意義 第 2 回：食品の栄養素 第 3 回：栄養素の種類と働き(1)：糖質、脂質、タンパク質 第 4 回：栄養素の種類と働き(2)：ビタミン、ミネラル、食物繊維、水 第 5 回：食物の消化と栄養素の吸収・代謝(1)：消化と吸収 第 6 回：食物の消化と栄養素の吸収・代謝(2)：吸収された栄養素の運搬と代謝 第 7 回：食物の消化と栄養素の吸収・代謝(3)：吸収された栄養素の代謝と老廃物の排泄 第 8 回：エネルギー代謝：体内のエネルギー収支 第 9 回：栄養状態の評価と判定 第 10 回：ライフステージと栄養(1)：成長期における栄養 第 11 回：ライフステージと栄養(2)：成人期における栄養 第 12 回：ライフステージと栄養(3)：高齢期における栄養 第 13 回：治療的栄養補給(1) 第 14 回：治療的栄養補給(2) 第 15 回：生活習慣病と食生活改善

アクティブ ラーニング	なし
評価方法	筆記試験 90%、リアクションペーパー10%、計 100%
課題に対する フィード バック	リアクションペーパー中の講義内容に関する質問については、次回講義中に説明する。
指定図書	系統看護学講座 専門基礎分野「栄養学・人体の構造と機能(3)」 医学書院
参考図書	授業中に随時提示
事前・ 事後学修	少なくとも 40 分間は、授業プリント（授業のたびに配布する）を再読し、教科書と照らし合わせて理解するよう努力する。
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	なし

科目名	微生物・感染
科目責任者	松尾 哲道
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	感染症にかかった患者を看護する立場にある人々は感染症についての知識はもちろん、感染症の原因である病原微生物について十分な知識を持ち、これに基づいた適切な処置が必要である。また、感染症と深く関連性のある免疫学についての十分な知識も必要である。これらのことを学習目的とする。
到達目標	1. 微生物学の体系的な基礎知識とその特徴を学び、病原微生物と感染及び発病の概念が理解できるようにする。 2. 生体の種々の防御機構(特に免疫)を学び、病原微生物に対する適切な対応処置に関する知識を修得できるようにする。 3. 現在、問題になっている、院内感染、日和見感染について十分な知識を得る。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：微生物・感染を学ぶ意義、微生物・感染の基礎知識、微生物の種類、感染と感染症の成り立ち、宿主と病原体の相互関係、日和見感染、菌交代症 第 2 回：院内感染、滅菌と消毒、免疫学総論 第 3 回：液性免疫と細胞性免疫、免疫担当細胞、Bリンパ球とTリンパ球、Tリンパ球の種類、主要組織適合性抗原 (MHC) 第 4 回：抗原侵入から抗体再生まで (プリント、ビデオ)、抗原、抗体、補体、免疫グロブリンの種類、リンホカイン 第 5 回：免疫グロブリンの基本構造、抗原抗体反応、自己免疫疾患、細菌学総論 第 6 回：ブドウ球菌、MRSA (メチリン耐性黄色ブドウ球菌) 第 7 回：レンサ球菌、肺炎球菌、腸球菌、淋菌、髄膜炎菌、緑膿菌、セパシア、アシネトバクター、レジオネラ菌、コクシエラ、ブルセラ菌、野兔病菌、百日咳菌 第 8 回：大腸菌、赤痢菌、サルモネラ、ペスト菌、セラチア、コレラ菌、腸炎ビブリオ、インフルエンザ菌、軟性下痢菌、カンピロバクター、ヘリコバクター、炭疽菌、リステリア 第 9 回：ジフテリア菌、結核菌、非結核性抗酸菌、らい菌、放線菌、破傷風菌 第 10 回：ボツリヌス菌、ガス壊疽菌群、ウエルシュ菌、ディフィシル菌、梅毒トレポネーマ、ボレリア、レプトスピラ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、ウイルス学総論 第 11 回：単純ヘルペスウイルス 1 型、2 型、水痘-帯状疱疹ウイルス、EBウイルス、サイトメガロウイルス、Bウイルス、アデノウイルス、ヒトパピローマウイルス、ヒトパルボウイルス、インフルエンザウイルス 第 12 回：ムンプスウイルス、麻疹ウイルス、RSウイルス、狂犬病ウイルス、マールブルグウイルス、エボラウイルス、ポリオウイルス、コクサッキーウイルス、エンテロウイルス 70、ライノウイルス、ロタウイルス、風疹ウイルス 第 13 回：黄熱ウイルス、デングウイルス、日本脳炎ウイルス、ウエストナイルウイルス、SARSウイルス、MERS コロナウイルス、ノロウイルス、ハンタウイルス、ラッサウイルス 第 14 回：レトロウイルス総論、ヒトTリンパ球性ウイルス 1、ヒト免疫不全ウイルス 第 15 回：肝炎ウイルス (A 型、B 型、C 型、D 型、E 型)

アクティブ ラーニング	なし
評価方法	筆記試験（免疫学、細菌学、ウイルス学）100%（定期試験）
課題に対する フィード バック	なし
指定図書	『系統看護学講座 疾病のなりたちと回復の促進 [4] 微生物学』南嶋 洋一／吉田 眞一／永 淵 正法著、医学書院
参考図書	病原体との共存を考える会著、松尾哲道監修「（図解）感染恐怖マニュアル」文藝春秋
事前・ 事後学修	予習・復習をすること。
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	なし

科目名	看護学原論 I
科目責任者	鶴田 恵子
単位数他	2 単位 (30 時間) 必修 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	「看護とは何か」「看護職者は何をするのか」「看護学とはどのような学問のか」などの原理を探究し、看護学の本質的な理解を深め、看護学の発展を担う創造性豊かな看護職者としての基礎を培うことを目的とする。看護の本質や歴史を学修し、看護の対象となる個人・家族・地域について学修する。看護実践の基盤である看護技術および倫理・法律などの諸側面から看護実践の基礎を学修し、看護実践をするための重要な思考方法について学修する。看護の専門性への道程を理解し、看護学の発展を担う創造性豊かな看護職者としての基礎を培う。これ以後に展開される看護学全体の学びの動機づけを図る。
到達目標	1. 看護・看護学の独自性を理解する。 2. 看護の歴史的変遷を理解する。 3. 看護の対象とはいかなる人々をいうのかを理解する。 4. 看護技術の特性を理解する。 5. 看護における倫理の重要性を理解する。 6. 看護と法の関係を理解する。 7. 医療安全の重要性を理解する。 8. 看護実践をするための重要な思考方法を理解する。 9. 看護職が専門職であることを理解する。 10. 看護学生の責務を述べることができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名> 第 1 回： 看護の本質 第 2 回： 看護の基本となるもの 第 3 回： 看護の歴史 第 4 回： 変化している看護、地域基盤の看護と看護の継続性 第 5 回： 統合体としての人間、生活者としての人間 <柴田めぐみ> 第 6 回： 健康とウェルネス、家族とその機能 <柴田めぐみ> 第 7 回： 看護実践における技術 第 8 回： 看護実践と倫理 第 9 回： 看護と法 第 10 回： 医療安全（柴田めぐみ） 第 11 回： 看護実践とクリティカルシンキング <樫原理恵> 第 12 回： 看護過程 <樫原理恵> 第 13 回： 専門性への道程、看護の専門職性、専門領域の確立と展望 第 14 回： 看護における実践・研究・理論、看護実践と研究、看護実践と理論、看護・看護学の展望と課題 第 15 回： フォーラム「看護学生の責務とは何か」

アクティブ ラーニング	グループワーク：授業中に 10 分程度、グループワークの時間をとる。提示したテーマに関してグループおよび全体で意見交換を行う。 講義内容の振り返り：授業終了時に配布される用紙に、授業への質問、意見、感想を記入する。
評価方法	授業への取り組み 30%、課題レポート 20%、定期試験 50%
課題に対する フィード バック	1. レポートにコメントを記載して返却 2. 講義終了時に回収する用紙へのフィードバックは、次回からの講義内容に反映する。
指定図書	1. 看護学テキスト NICE 看護学原論(改定第 2 版)、南江堂、2019 2. ヴァージニア・ヘンダーソン著、湯槇ます 小玉香津子訳、看護の基本となるもの 新装版、日本看護協会出版会、2018. 3. 平林勝政、小西知世、和泉澤千絵編、ナーシング・グラフィカ健康支援と社会保障④ 看護をめぐる法と制度、メディカ出版、2019.
参考図書	なし
事前・ 事後学修	1. 初回講義時に「ガイダンス資料」にて提示します。 2. 授業の時に、次の授業の事前課題を提示する。授業は事前課題に基づいて展開するので、課題に基づいた予習を必ずしていること
オフィス アワー	鶴田恵子：看護学部、1617 研究室（授業開講日の 12:00 から 12:45） 連絡先 keiko-t@seirei.ac.jp
実務経験に 関する記述	本科目は「保健師・助産師・看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	看護学原論Ⅱ
科目責任者	鶴田 恵子
単位数他	1 単位 (15 時間) 必修 2 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP2 専門
科目の 位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	社会と看護学に関する基礎となる知識を学修して、社会に求められる看護職者としての基礎を培うことを目的とする。社会を形作る文化や制度と健康との関連について学び、地域と健康や国際社会と健康について学修するとともに、看護実践に必要な心理・社会的理解を深める基礎的な知識や考え方を学修する。また、看護実践に必要なチーム医療や保健・医療・福祉における協働について基礎的な知識や考え方を学修する。さらに、社会から求められる看護の役割の拡大への展望と課題について学修する。
到達目標	1. 看護をめぐる法と制度について理解する。 2. 看護の役割・機能の拡大を理解する。 3. 地域（国際的視野、国内的視野）と文化を理解する 4. 看護実践に必要な心理・社会的概念を基礎を理解する。 5. チーム医療の目的・意義を検討し、看護職の役割を理解する。 6. 多職種の連携・協働に果たす看護の役割と重要性を理解する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回： 社会と看護 第 2 回： 看護をめぐる法と制度 第 3 回： 地域と健康、国際社会と健康 第 4 回： 終末期看護実践の心理・社会的理解 第 5 回： チーム医療と看護 第 6 回： 保健・医療・福祉における連携・協働 第 7 回： 在宅看護の発達 第 8 回： 看護の役割・機能拡大 <担当教員名> <柴田めぐみ> <柴田めぐみ> <川村佐和子>

アクティブ ラーニング	グループワーク：授業中に 10 分程度、グループワークの時間をとる。提示したテーマに関してグループおよび全体で意見交換を行う。 講義内容の振り返り：授業終了時に配布される用紙に、授業への質問、意見、感想を記入する。
評価方法	授業への取り組み 30%、課題レポート 20%、定期試験 50%
課題に対する フィード バック	1. レポートにコメントを記載して返却 2. 講義終了時に回収する用紙へのフィードバックは、次回からの講義内容に反映する。
指定図書	1. 看護学テキスト NICE 看護学原論(改定第 2 版)、南江堂、2019 2. 平林勝政、小西知世、和泉澤千絵編、ナーシング・グラフィカ健康支援と社会保障④ 看護をめぐる法と制度、メディカ出版、2019.
参考図書	なし
事前・ 事後学修	1. 初回講義時に「ガイダンス資料」にて提示します。 2. 授業の時に、次の授業の事前課題を提示する。授業は事前課題に基づいて展開するので、課題に基づいた予習を必ずしていること
オフィス アワー	鶴田恵子：看護学部、1617 研究室（授業開講日の 12:00 から 12:45） 連絡先 keiko-t@seirei.ac.jp
実務経験に 関する記述	本科目は「保健師・助産師・看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	基礎看護技術Ⅰ
科目責任者	檜原 理恵
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 1 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP2 専門
科目の 位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	看護の対象である人間を生活者としてとらえ、人間の基本的ニーズを充足するための看護技術の原理・原則を学修し、科学的根拠に基づく基本的援助方法を学び修得する。本科目では、看護場面に共通する安全・安楽を守るための基本的な技術としてコミュニケーション、ボディメカニクス、感染予防の技術、環境調整の技術について学び修得する。また、看護専門職に必要な態度について学び修得する。
到達目標	1. 看護技術の特徴について理解する 2. 看護に共通する技術の原理・原則、根拠について理解する 3. 看護に共通する技術を修得する 4. 看護の対象となる人の療養環境について理解し、必要な技術について学修し修得する 5. 実施した看護技術について、グループで意見交換し、安全・安楽の視点で評価する 6. 能動的な学修態度を身に着ける
授業計画	担当教員：檜原理恵、佐久間佐織、炭谷正太郎、柴田めぐみ、早川ゆかり 第1回 科目ガイダンス：看護技術とは、コミュニケーションの意義と構成要素（檜原） 第2回 コミュニケーションの意義と構成要素（檜原） 第3回 関係構築のためのコミュニケーションの基本 第4・5回 効果的なコミュニケーション（講義：檜原、演習：全員） 第6回 看護技術に必要なボディメカニクス（講義：柴田、演習：全員） 第7回 感染予防に必要な技術（講義：早川） 第8・9回 感染予防に必要な技術（演習：*全員） 第10・11回 環境調整に必要な技術（講義：佐久間） 第12・13回 環境調整に必要な技術：ベッドメイキング、シーツ交換（演習：**全員） 第14回 技術の確認（演習：*） 第15回 まとめ *授業計画の詳細については、科目ガイダンスで説明します。

アクティブ ラーニング	*講義は、事前課題をもとに授業を進行します。 *演習は、事前課題をもとに実践します。
評価方法	定期試験 60%、技術の確認 30% 課題提出物 10%
課題に対する フィード バック	*事前課題のミニテストについては、授業で解説をします。 *リアクションカードの質問には、次回授業で回答します。
指定図書	茂野香お他（2015）．系統看護学講座 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ， 医学書院. 任和子他（2017）．系統看護学講座 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ， 医学書院. 三上れつ/小松万喜子（2017）看護学テキストNice ヘルスアセスメント改訂第2版、南江堂
参考図書	詳細は授業で提示します。
事前・ 事後学修	【事前学修】 *单元ごとに課題を掲示します。テキストの該当箇所を読み、実施してください。 *テキスト、ナースिंगスキル (https://nursingskills.jp エルゼビアジャパン) の動画視聴 【事後学修】 *授業内容、テキストの振り返りをします。提出課題はありません。
オフィス アワー	檜原理恵：1616 研究室 rie-k@seirei.ac.jp 時間はオリエンテーション時にお知らせします。
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	基礎看護技術Ⅱ
科目責任者	佐久間 佐織
単位数他	2 単位 (60 時間) 必修 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	看護の対象である人間を生活者としてとらえ、基本的ニーズを充足するための看護技術の原理・原則を学修し、科学的根拠に基づく基本的援助方法を修得する。また、対象に合った看護実践を行うために必要となるフィジカルアセスメントの基礎知識、技能を学び、修得する。演習では看護者と対象者の両者を経験することによって援助技術の理解を深め、看護に必要な態度を修得する。本科目では、全身の観察と、対象に合わせた「活動・休息」「身体の清潔」を援助する技術に焦点をあて学修する。
到達目標	1. 生活者である看護の対象に対する日常生活を援助するための基本技術を修得できる。 2. 看護場面に共通する安全・安楽を守るための基本技術を修得できる。 3. フィジカルイグザミネーションを活用することにより、対象に合わせた看護援助を考え、多面的に考察できる。 4. 看護専門職者としての基本的姿勢と態度、および主体的・探求的な学修態度を身につける。
授業計画	担当教員 佐久間佐織、檜原理恵、炭谷正太郎、早川ゆかり、柴田めぐみ、 第 1 回 : 科目ガイダンス、フィジカルアセスメントの基本手技 第 2・3 回 : 全身の観察、問診 第 4・5 回 : バイタルサインの測定 第 6・7・8 回 : 体温、脈拍、呼吸、血圧の測定【演習】 第 9・10 回 : 外皮系、感覚器系（視覚・聴覚）のフィジカルアセスメント【講義・演習】 第 11・12 回 : 筋・骨格系、神経系のフィジカルアセスメント 第 13・14 回 : 筋・骨格系、神経系のフィジカルアセスメント【演習】 第 15・16 回 : 活動と休息の基本的な知識、援助の実際 第 17・18 回 : 体位保持、体位変換【演習】 第 19・20 回 : 車いす・ストレッチャー移乗・移送【演習】 第 21・22 回 : 清潔・衣生活の基本的な知識、援助の実際 第 23・24 回 : 寝衣交換・足浴【演習】 第 25・26 回 : 洗髪【演習】 第 27・28 回 : 清拭【演習】 第 29・30 回 : フィジカルイグザミネーションを活用した看護援助の計画・実施【演習】

アクティブ ラーニング	※講義は、事前課題をもとに授業を進行します。 ※講義では、グループディスカッションをします。 ※演習は事前課題をもとにロールプレイングを行います。
評価方法	定期試験 50%、技術の確認 20% 課題提出物 30%
課題に対する フィード バック	※事前課題のミニテストについては、授業で解説をします。 ※リアクションカードの質問には、次回授業で回答します。
指定図書	茂野香お他 (2015). 系統看護学講座 基礎看護学 2 基礎看護技術 I, 医学書院. 任和子他 (2017). 系統看護学講座 基礎看護学 3 基礎看護技術 II, 医学書院. 三上れつ・小松万喜子編集 (2017). 看護学テキスト NiCE ヘルスアセスメント (改訂第 2 版) 臨床実践能力を高める, 南江堂. ナーシングスキル (https://nursingskills.jp エルゼビアジャパン)
参考図書	坂井建雄他 (2017). 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学, 医学書院. 医学情報科学研究所 (2014). 看護技術がみえる vol.1 基礎看護技術 第 1 版, メディックメディア. (その他、授業内で随時提示します。)
事前・ 事後学修	【事前学修】 ※单元ごとに課題を掲示します。テキストの該当箇所を読み、実施してください。 ※テキスト、ナーシングスキルの動画視聴 【事後学修】 ※授業内容、テキストの振り返りをしてください。
オフィス アワー	1 号館 6 階 1618 研究室、随時 不在の場合は、メール (saori-s@seirei.ac.jp) にて問い合わせてください。
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	地域看護学実習
科目責任者	鈴木 知代
単位数他	1 単位 (45 時間) 必修 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	健康の維持、増進、回復、健康状態の悪化の予防などをおして、すべての人々の QOL の向上とそれらを支える公正で安全な地域社会の構築に寄与することを目ざす地域看護学の考えを基盤とし、地域で生活する多様な健康レベルにある個人や家族の生活、集団における人々の相互作用（互助）、地域の住民組織の活動を把握することを目的とする。さらに、対象者に対して生命の尊厳と隣人愛を基盤とした適切な関係を築くことについて実習を通して学ぶ。
到達目標	1. 地域の健康課題を発見し、その対策の一つであるポピュレーションアプローチについて考察することができる。 2. 地域で生活している人々の生活の理解、生活圏を理解し、住民相互の「互助」を理解しその効果を考察する。 3. 地域の住民組織の活動を把握する。
授業計画	<担当教員名> 鈴木知代、仲村秀子、入江晶子、伊藤純子、若杉早苗 第 1 回：地域看護学実習についてのオリエンテーション 実習 1：健康課題発見・対策を学ぶ実習 目的：地域の健康課題を発見し、その対策であるポピュレーションアプローチについて考察することができる。 方法：地域で行われている健康課題解決のための講演会や講習会、健康祭りなどに参加し、レポートをまとめる。 ①学生は教員が推薦する事業、市町村や県のホームページやチラシなどで各種事業や講演会などの情報を収集する。 ②教員に実習計画書を提出し、助言を受け参加の許可を得る。計画書の内容は、参加日時、事業内容、健康課題の内容と根拠等。 ③参加して実習記録に記載する。実習記録の内容は、参加者の状況観察、ポピュレーションアプローチとしての企画の意図、講演会の内容、期待される効果などを記載し、事業の必要性を考察する。 ④テーマごとにグループを作り、数グループで情報を共有する。 ⑤個人でレポートにまとめ、ポピュレーションアプローチの意義を考察する。 *時期：事業への参加は 2019 年 10 月から 2020 年 1 月下旬までの間 グループでの共有化は 2 月の実習期間 実習 2：地域で生活する人々の生活・生活圏の理解、地域の「互助」把握実習 目的：地域で生活している人々の生活の理解、生活圏を理解し、住民相互の「互助」を理解しその効果を考察する。 方法：4 名程度でグループを編成し地域に出る。 ①地域の住民組織やグループ活動に参加し、人々の生活、生活圏についてインタビューを行う。 住民組織の活動に参加し、住民相互の様子を観察し互助の意義を考察する。 ②インタビュー内容より、人々の生活圏を地区視診し、生活圏をマップと写真で表現する。 ③テーマごとにグループが集まって活動の共有化を図る。 ④生活や生活圏、互助、住民組織の活動の意義等について個人でレポートにまとめる。 *時期：2 月の実習時期

アクティブ ラーニング	実習科目です。
評価方法	実習記録 20%、課題レポート 1 (30%)、レポート 2 (30%)、実習に取り組む姿勢や態度 20%
課題に対する フィード バック	実習計画、グループでの共有化、課題レポート内容についてフィードバックを行います。
指定図書	『標準保健師講座 1 公衆衛生看護学概論』: 医学書院
参考図書	随時紹介します
事前・ 事後学修	実習オリエンテーションで提示します。
オフィス アワー	教員は実習に出ていることも多いので、面接は事前にメールで予約をとってください。 鈴木知代 (1215 研究室: tomoyo-s@seirei.ac.jp) 仲村秀子 (1212 研究室: hideko-n@seirei.ac.jp) 入江晶子 (1207 研究室: syoko-i@seirei.ac.jp) 伊藤純子 (1672 研究室: junko-it@seirei.ac.jp) 若杉早苗 (1220 研究室: sanae-w@seirei.ac.jp)
実務経験に 関する記述	本科目は「保健師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	基礎看護学実習 I
科目責任者	檜原 理恵
単位数他	1 単位 (45 時間) 必修 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	様々な立場や意見、生活背景を持つ看護の対象者を理解し、対象を理解するために必要な基本的な態度、コミュニケーション能力を身につける。看護の対象となる人々の病院における生活環境の実際を知ると共に、看護の役割について考える。また、看護職に必要な基本的態度を理解し育成する。同時開講する地域看護学実習 I での学びと合わせ、対象理解のための学修を深める。
到達目標	1. 患者の病院における療養環境を知る。 2. 看護師が行う看護実践を見学して、看護の役割について考え、自分の看護観を培うことができる。 3. 看護職に必要な基本的な態度を学ぶことができる。
授業計画	<担当教員名> 檜原理恵、炭谷正太郎、佐久間佐織、柴田めぐみ、早川ゆかり、他 <授業内容・テーマ等> 1. 実習場所 聖隷三方原病院、聖隷浜松病院、浜松市リハビリテーション病院、浜松労災病院、北斗わかば病院 2. 実習期間 2 月 3. 実習展開 学内実習：オリエンテーション 臨地実習：臨地実習 実習のまとめ

アクティブラーニング	実習
評価方法	自己評価に基づく面接 40%、実習への取り組み姿勢・カンファレンスへの参加度 30% 実習記録 10%、課題レポート 20% 実習目標に合わせ、ループブックを用いて評価します。
課題に対するフィードバック	実習当日に実習記録等を基に、担当教員と面談の時間を持ち、自己の課題と解決方法についてフィードバックを行う。
指定図書	茂野香おる他：系統看護学講座 基礎看護学（2）基礎看護技術Ⅰ，医学書院，2016. 任和子他：系統看護学講座 基礎看護学（3）基礎看護技術Ⅱ，医学書院，2015. ナーシングスキル： https://nursingskills.jp/ ，エルゼビアジャパン
参考図書	オリエンテーション時に連絡
事前・事後学修	実習オリエンテーションの内容を基に、看護学原論Ⅰ・基礎看護技術Ⅰで学修している内容を事前学修します。また、看護技術を見学・実施するにあたり、基礎看護技術Ⅰの復習が必要です。加えて同時開講している看護学原論Ⅱ・基礎看護技術Ⅱの該当箇所を事前・事後学修します。
オフィスアワー	檜原理恵：1616 研究室 rie-k@seirei.ac.jp 時間はオリエンテーション時にお知らせします。
実務経験に関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	公衆衛生看護学概論
科目責任者	鈴木 知代
単位数他	2 単位 (30 時間) 必修 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	地域で生活するあらゆる人々の健康について、生活を基盤に捉え、社会的な背景も踏まえ看護の立場から保持・増進し、疾病を予防していく公衆衛生看護の理念を理解する。そして、地域住民の 1 人ひとりの健康状態をよりよい状態にすること、および対象集団全体の健康増進と疾病予防を地域社会の組織化された努力によって実現するため、対象、活動の場、展開方法を理解する。
到達目標	1. 公衆衛生看護の理念について、理論を通して学ぶ。 2. 公衆衛生看護の対象、方法論を理解する。 3. 公衆衛生看護の歴史を概観し、活動の特徴、意義を探究する。 4. いろいろな場で活動する公衆衛生看護の実際を把握し、展開方法を理解する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名> 第 1 回：公衆衛生看護の定義、公衆衛生看護の理念 鈴木知代 第 2 回：プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーションの考え方と公衆衛生看護活動 鈴木知代 第 3 回：公衆衛生看護の歴史 伊藤純子 第 4 回：社会の動向と公衆衛生看護活動 仲村秀子 第 5 回：公衆衛生看護の基盤となる概念：倫理、基本的人権、社会的公正 鈴木知代 第 6 回：公衆衛生看護の対象の捉え方 鈴木知代 第 7 回：公衆衛生看護活動の場 若杉早苗 第 8 回：公衆衛生看護の実際：行政看護 ゲストスピーカー 第 9 回：公衆衛生看護の実際：産業看護 ゲストスピーカー 第 10 回：公衆衛生看護の実際：学校看護 津田聡子 第 11 回：公衆衛生看護活動方法の基本的考え方：予防と健康増進、地域づくり 鈴木知代 第 12 回：公衆衛生看護活動方法の基本的考え方：アウトリーチ、協働 鈴木知代 第 13 回：公衆衛生看護活動方法の基本的考え方：事業化、システム化 鈴木知代 第 14 回：公衆衛生看護活動の展開方法：PDCA サイクル、 ホスピタリションアプローチとハリスケアアプローチ 鈴木知代 第 15 回：まとめ 鈴木知代

アクティブ ラーニング	授業時間内に、テーマを提示します。数人で討論を行い、その内容を発表してもらいます。
評価方法	課題レポート：40% 定期試験：60% 課題レポートを評価しますが、評価にルーブリックは用いません。
課題に対する フィード バック	事前学修内容を基に授業を展開し、授業の中で課題のフィードバックを行います。
指定図書	標美奈子（著者代表），標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論 医学書院.
参考図書	授業中に提示します。
事前・ 事後学修	授業の最後に、次の授業の予習内容を提示します。その事前学修を基に、授業を展開していきます。
オフィス アワー	実習等で学外に出ていることも多いため、メールにて面談の予約をしてください。日程を調整します。 鈴木知代：tomoyo-s@seirei.ac.jp
実務経験に 関する記述	本科目は「保健師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	教職概論
科目責任者	成松 美枝
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 1 セメスター
DP 番号と科目領域	教 DP1 教職
科目の位置付	教育に関する基礎的な教養・技能を身につけている。
科目概要	教職免許状の取得をめざす学生として、教職の意義や教員として果たすべき役割、その使命と職務内容に関して理解を深めるとともに、自分自身が本当に教員という仕事に情熱をもって取り組むことができるかどうか、色々な視点から考えることがこの授業の目的となります。 自分自身で考える理想の教員像や、これから教員となる為に何を勉強すればよいのかを考えることも課題となります。
到達目標	1 教員という仕事の役割と使命について、その職務内容を理解し、説明できること 2 自分の理想とする教員像を構築し、これから何を学び身につけていくべきか、具体的に言語化することができる。 3 今日の学校教育現場の変化と問題などに関して理解し、その概要と対応策を 400 字程度で事例をあげながら説明できるようになること。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：教員になるために（教員免許状の種類） 第 2 回：教職の意義と教員の役割 第 3 回：学校教育の役割と社会的意義 第 4 回：教員の服務上・身分上の義務 第 5 回：教員の職務内容：教科指導と生徒指導 第 6 回：教員の職務内容：ゲストスピーカー講演 第 7 回：教員の身分保障に関する法律 第 8 回：教員の研修制度と教員の権利 第 9 回：教育病理：いじめ・不登校・暴力行為などの学校教育の問題 第 10 回：教育病理：学校教育の問題への教員の対応 第 11 回：地域社会との連携とチーム学校運営への対応 第 12 回：教員の職務内容：ゲストスピーカー講演 第 13 回：教員の力量形成と学び続ける教師像 第 14 回：教員に求められる資質と能力 第 15 回：まとめ T

アクティブ ラーニング	グループディスカッション、復習テスト、キーワードレポート
評価方法	授業内評価点 60% (小テスト・提出課題・レポート・授業態度) + 定期試験 40% で総合評価します。レポートはルーブリックで評価をする。
課題に対する フィード バック	各種テストの解答例の提示、レポート、リアクション・ペーパーへのコメントのスライド提示
指定図書	なし。授業中に配布するテキスト・プリントを使用する
参考図書	大津尚志、坂田仰『はじめて学ぶ教職の基礎 教師になることを考えるあなたに』協同出版、2006 年。
事前・ 事後学修	事前・事後の学習として、毎回配布する授業のテキスト・プリントを最低 3 回は熟読してきて下さい。提出課題をしっかりと完成させて提出して下さい。目安時間 40 分。
オフィス アワー	月曜日 2 限目 1711 研究室 E-mail: mie-n@seirei.ac.jp で予約をして来室してください。
実務経験に 関する記述	本科目は「中学校教諭・高校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	学校保健
科目責任者	津田 聡子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 2 セメスター
DP 番号と科目領域	教 DP2 教職
科目の位置付	養護教諭として必要な専門的知識・技能を身につけている。
科目概要	学校保健安全法の目的は、児童生徒等及び教職員の健康の保持増進を図り、安全な学習環境を提供することにより、学校教育の円滑な実施とその成果を確保することにある。学校保健安全法が示す学校における児童生徒等の健康と安全を図るための教育保健活動について学習し、学校保健安全に対する知識、技術と態度を修得する事を通して、実践力の基礎を養う。
到達目標	1. 学校保健安全法の目的・意義を説明できる。 2. 学校における保健管理・保健教育・安全管理等における養護教諭の役割機能を説明できる。 3. 学校保健における教職員が果たす役割機能を説明できる。 4. 組織活動に関わる地域及び社会資源について説明できる。 5. 児童生徒の保健管理に必要な基礎的知識・技術を身につけることができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：オリエンテーション 養護教諭の職務と専門性 津田聡子 第 2 回：学校保健の目的と変遷、国や文部科学省の役割と関連法律 津田聡子 第 3 回：学校保健の構成職種 保健室経営における校内教職員との連携 津田聡子 (保健室経営案・学校保健計画・学校安全計画) 第 4 回：児童生徒の発達段階に基づいた健康把握・評価と健康実態 津田聡子 第 5 回：健康診断の目的と意義 津田聡子 第 6 回：健康観察の目的と意義 津田聡子 第 7 回：児童生徒の疾病管理（慢性疾患・感染症） 津田聡子 第 8 回：学校救急処置と養護診断 津田聡子 第 9 回：健康相談の進め方、児童生徒の心身の健康問題とその対応 津田聡子 第 10 回：安全で健康的な学校づくり（環境衛生・危機管理） 津田聡子 第 11 回：保健学習・保健指導と養護教諭の役割 津田聡子 第 12 回：学校組織における学校保健推進の実践（ゲストスピーカー：養護教諭） 第 13 回：学校保健における他職種との連携① 社会福祉学部 大場義貴 精神保健福祉士の役割と実際 第 14 回：学校保健における他職種との連携② 伊藤純子 行政保健師の役割と実際 第 15 回：組織活動とヘルシースクール 養護教諭に求められている専門性と今日的課題 津田聡子

アクティブ ラーニング	毎回、短時間のグループディスカッションを取り入れる。 第5回では健康診断の実習を行う。第8回・9回ではロールプレイングを行う。
評価方法	課題提出物 40%、定期試験 60%
課題に対する フィード バック	レポートはコメントを添えて返却する。 リアクションペーパーは全体場でフィードバックを行う。
指定図書	学校保健ハンドブック第6次改訂（教育養成系大学保健協議会/編）ぎょうせい
参考図書	津島ひろ江「学校における養護活動の展開」ふくろう出版
事前・ 事後学修	事前学修：授業内容やテーマについて、指定図書を参考に40分以上の予習をして臨むこと。毎 授業時、学習状況を確認するとともに、適宜ミニテストを実施する。 事後学修：授業の配布資料などをもとに40分以上の復習をすること。 適宜、授業内容についてのレポート課題を課す。
オフィス アワー	科目責任者 津田 聡子（1619 研究室:satoko-t@seirei.ac.jp） 事前に予約を入れてください。
実務経験に 関する記述	本科目は「養護教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。